

INTERNATIONAL  
STADIUM  
YOKOHAMA

横浜国際総合競技場ボランティアだより

# ボランティアわ

ボランティア【ポルトガル語で舵とり】 わ【輪、和】を意味します

2000年  
10月15日発行  
秋号(季刊)  
Vol.2

## ボランティア 100人 真夏の KICK OFF !!



「170人分の飲物の量はどの位だろう。」参加申込者数を見て一番の悩みはこのことでした。《《会ったこともない人と会い、話をしたこともない人と話す。そこに融和が生まれ育つ》》そんなテーマでボランティア主催による初めての交流会を開催しました。



真夏の午後の・・・イベント名のとおり炎天に晒された会場でしたが、時間前から家族連れ或いは夫婦揃っての来場もあり、心配していた暑さをよそに皆さんは笑顔笑顔。久々の会話で笑い声が飛び交うなど、元気一杯の人達でテントは埋り、中には早くも飲物のオーダーをして待って貰うという場面もみられました。



この会場準備は、前日に170人分の買出し、看板作り、機材揃えなどを行い、当日は太陽ギラギラの中、中村課長をはじめ競技場の皆さん、依頼した準備委員の人達で整えられたものです。

今交流会の来賓に、西田場長、木村副場長、シミズスポーツから大村氏、ニッソーサービスから片岡氏が出席され、あとであいさつを受けました。

開会の冒頭、実行委員の安田氏は「会報発行及び交流会開催は、見学・運営の更なる交流。特に運営に於いては6ヶ月間の活動空白があり、ステップアップ研修成果の薄れを回復する意義も含まれている」と「啓発と親睦」をアピールしました。

一方、西田場長は「見学ボランティアの皆さんの真面目な言動は、見学者からは好感が持たれている。」また、「2002年6月30日は“雨で寒い日”と決まったので、悪天候も視野に入れた活動が大事」とユーモラスに語られて

会場を沸かせました。

木村副場長は、日頃の活動に感謝の言葉を添えたあいさつの後に乾杯して歓談に入りました。会場には場長からの差し入れと参加者の方からの手作りの料理が並び、一層なごやかさを増しました。合い間に会報の感想インタビューが行われ、皆さん一様に「今後も続けて」「期待する」の声が多い中、「会報誌はなぜ赤色か」と笑いを誘う質問に、司会がたじたじする場もみられました。また、「このような集いを数多く開催していただきたい」との声も多く聞かれました。



その後、定番のスイカ割りと待望の抽選会。この抽選の品は、F・マリノス・事務局などからご提供いただいたF・マリノスの選手のサイン入りユニフォームや色紙など百数点のお宝物ばかり。交換の度に一喜一憂する人達、小躍りする人で最高潮。太陽の傾きに合わせてテントを移動するハプニングありで、あっという間の2時間でした。閉会にあたり、宮川委員は「私達の財産は人と人とのつながり、見学・運営は両輪となって将来に向かって進みましょう」と締め括りました。

実行委員会は、これからも会報と交流会を介して融和あるボランティアを目指していく考えです。

最後に会場設営・撤収に協力していただいた方々に感謝いたします。

2002年FIFA  
ワールドカップ  
日本・韓国



『横浜開催を成功させよう!!』

## 『真夏の午後の交流会』に参加して 菅沼 哲也

夏まっ盛りになると、あちらこちらで納涼大会と銘打って模擬店が出ています。私がボランティアをしている横浜国際総合競技場でもできないかな?と思いました。外から見るとみんなすごく楽しそうだが、お店を出している人の苦労は並大抵じゃない!私も先月あるところで模擬店の手伝いをさせてもらいましたが、物売る事の難しさを実感しました。けれども完売した時の満足感には実際にやった者でなければ味わえないし、こういう機会があるからこそ私生活においても踏ん張りがきくし、イヤな事があっても頑張ろうと前向きになれます。

今回の交流会はお客さんとして参加させてもらいましたが、内容はともかくある意味でボランティアとして第一歩を踏み出したと思います。今までは、不慣れな部分

もあり与えられたものをこなす、事務局の方で企画してくれるのを待つ、という受動的な感じでしたが、この交流会を開催したことで何か“自分達でもやればできるんだ。よしまた何かやってみよう。”という気持ちになれたと思います。私も以前一緒に活動した人に限らず、初めての方とも話す事ができ、2時間があっという間に過ぎてしまいました。行く前は多少不安もありましたが参加してよかったです。ボランティアの良い所は、年齢・性別・社会的地位に関係なく同じ立場で活動でき、話せる事ではないかと思います。今後も定期的にこのような会を設けることができたらいいと思います。最後に実行委員・準備委員・事務局の方々、暑い中お疲れ様でした。今後ともよろしくお願いたします。

## 【特集 ボランティア研修会報告!!】

前回から2回に分けて、研修会で出された意見を取り上げているこのコーナーですが、今回は見学ボランティアからの意見です。(一部、当方の主観的な意見が入ってしまっているものがありますが、ご了承ください。)

### 1 語学に関する意見

この意見が最も多かったものです。募集要項には「外国からの見学者に対応できる方」との要件があったように記憶していますが、実際には語学を活かせる場がありません。事務局の説明によると、海外からの来場者は数日前に突然申込をしたり、直接スタジアムツアーに参加したりすることが多いためだそうですが、今後、連絡網作成の際に《急な要請に対する可否》や《対応可能な言語》等について記入することで改善できると考えます。海外からのお客様を暖かくお迎えするために対応マナーにも気をつけたいものです。

また、語学にあまり自信がない、他の言葉も学んでみたいと思っているボランティアのために、週末などに会議室を利用して、留学生を招くなどしてネイティブスピーカーによる語学研修会を開催することを企画してはどうでしょうか。

### 2 リーダーの設置の意見

意見や活動日程の調整役として、リーダー、サブリーダーを設けてはどうかというものです。《平日活動者》《週末・祝日活動者》《いつでも活動者》の3グループに分けて、それぞれにリーダーを配置してはどうでしょうか。

### 3 研修会についての意見

ボランティア研修会は、活動内容を考慮したうえで、より専門的な技能の習得をめざすために、別々に行う方

がいいという意見がありました。今年度の研修会については現在検討中とのこと。この意見が少しでも取り入れられた研修会を希望します。

### 4 活動目標についての意見

かなり多くの方が2002年のワールドカップを意識して活動していることがわかります。しかし個人個人でみると、それぞれに目標とするものが異なっています。

### 5 登録削除についての意見

無断欠席の回数とドタキャン(病欠等やむを得ない場合があります)の回数により、登録を取り消してはどうかという意見が多くありました。

### 6 交流についての意見

運営と見学、両ボランティア間の交流が少ないという意見が多くありました。そこで、8月に行われた交流会などのイベントのように、ボランティアの企画による色々な活動を計画していきたいと考えています。また、新たなイベントを開催する際には、当誌上にてお知らせいたします。

### 7 2002年に向けての意見

研修会の時に話があったように、ワールドカップボランティアの中には語学力を必要とする部署の募集もあるようです。そのため、自主的な研修を開いていくようなこともボランティア側が提案し実行していくべきでしょう。

『与えられた仕事ではなく、何をやりたいか、何をやれるかを考える。そして実現するための手段を考える。』(創刊号より抜粋)  
競技場ボランティアが発足して以来、事務局側に頼りがちだった私達の活動は、運営も見学も今まさに自主運営に向けてその歩みを始めたところです。

## 【特別企画 ボランティア一家 鈴木ファミリー】

8月20日に行われたボランティア交流会で、家族全員で参加された鈴木さんご一家に、ビール片手に気分の良くなったところで「ボランティア」についてあれこれをお伺いすることができました。鈴木家は三人家族（裕雄さん・直代さんご夫婦とご子息の崇さん）で、皆さん運営ボランティアとして活動されておられます。

（以下の会話について裕：裕雄さん、直：直代さん  
崇：崇さん、編：編集委員を表します）

編：では、早速ですが、皆さんがこのボランティアを始めきっかけは、何だったのですか？

裕：いや、一言では言い表せませんね。ただこれまで、常日頃横浜というところにお世話になっていて、何か恩返しをしようという気持ちを持っていたのです。そこで、市民健康体力づくり指導者（1年間の講習が必要）などの他のボランティア活動にも積極的に参加をするということで、思っていたことを実行してきました。そして、色々な活動をしていくうちに、家族ぐるみで参加できる活動を探そうになり、そう思っているところにこの横浜国際総合競技場のボランティア募集の知らせを目にしました。それからこのことを家族に話し、家族の総意で参加を決めました。

直：私は、一昨年に行われた「かながわゆめ国体」にマスゲームの一員として参加をしたのですが、この時に目にしたボランティアの方々の姿に感動したことが一番の理由です。

崇：私はサッカーが大好きで、それと何かしらの関わりを持ちたいと思って、このボランティアに参加をしました。この競技場はワールドカップの決勝戦開催地候補ということもありましたから。

裕：崇のサッカー好きは私達にも影響がありました。私達家族は元々スポーツが好きだったのですが、サッカーについてはルールも知らなかったのに、今ではもう夢中になっていますからね。

編：これまでボランティア活動をしてきた中で、一番思い出に残っていることは何でしょうか？

裕：あまりいいことではないのですが、喫煙のことでお客様に注意したことがありましたが、それを受け入れてもらえなかった時にはがっかりしました。しかし、これとは反対に、お客様が「ご苦労様」と一声かけてくださった時には、本当にやりがいを感じました。

直：（直接のボランティア活動中ではありませんが）横浜F・マリノスの選手交流会で、孫の小学校の

先輩の外池選手にサインをいただいた事ですね。サッカーに夢中の孫の分とあわせて2枚サインしていただきました（笑）。

崇：ボランティアのサッカー好き達と休憩時間を利用して存分にサッカー談義を盛り上げた事です。

編：これから活動するに当たって、何かこうしてほしいということはあるですか？

裕：そうですね、毎回活動後にアンケートを出しているのですがなかなか反応が返ってこないのは困りますね。また答えが返ってきても「保留」「検討中」という言葉はやめてほしいです。とにかく早く具体的な答えを出してほしいというのが、やはり一番の願いですね。アンケートがうまくまとまらないのであれば、活動後に反省会を開いて意見を出し合っていくことが必要ではないかと思います。確かにナイトゲームになると帰りが遅くなるなどの影響がでますが、このような形の方が同調意見が生まれやすいだろうし、また私達の生の声がより伝わりやすくなると思うのです。もし今の状況が続いてしまうと、ボランティアの活動後のアンケート熱というものが冷めてしまうと思いますね。でも、今度の中村課長からはボランティア活動に対しての積極的な雰囲気を感じられるので、特に期待しています。役所的な考えを捨て、ボランティアの立場に立って意見を聞いてほしいです。

編：最後に今後の活動への抱負を聞かせてください。

裕：先程も申しましたように、横浜市への恩返しとして行っていることなので、今後もこのボランティアだけでなく諸活動において、機会があるごとにそれらに積極的に参加していこうと思います。でも「楽しくやらなきゃ人生じゃない。楽しくやらなきゃボランティアじゃない。」という気持ちは忘れたくないですね。

今回取材をした私も、ボランティアの一活動員として感心させられることが多々ありました。特に3人ともこれまでの活動参加率が100%ということで、いかにボランティア活動に対する鈴木さん一家の熱意が強いかを感じ取ることができました。鈴木さんは家が近いからということを経由としてあげておられますが、強い気構えなくしてこの実績は確立されるものではないと思います。そしてまた最後の裕雄さんの一言は、これからボランティア活動を行っていくうえで忘れてはならないものでしょう。

（編集部）

## 「不安と期待感」

澤内 幸司

運動不足解消にと始めたサッカーがきっかけで、巡り巡ってワールドカップを間近で見たいがために、そして興味のあるサッカーに携わりながら奉仕活動ができる。横浜国際総合競技場のボランティア活動に参加した会社員です。活動当初は、ボランティア活動自体が初めてだったので私に勤まるのであろうか？できるものであろうか？という不安と、サッカー（Jリーグ）の舞台裏のほんの一部に携わることへの期待感が入り混じり、とても不安でいました。「お願いだから私に場所を尋ねないで」などと思ったこともありました。そのうちに、一緒に活動する人の数も増え（笑ってしまうくらい極端に）何回かの活動を経てだんだんと不安もなくなりました。笑ってごまかすこと？も少なくなりました。最近では、活動の終わった後に、いかに早く券種を見分けるか、ミシン目を間違えずにもぎるか、あのシートへの近道はこっちだとか、やっぱり西側、北側は寒い、風が強い、など仲間内で飲みながら楽しく話しています。いつまでボランティア活動を続けられるかわかりませんが、これからも一緒に活動する方々とたくさん知り合い、横浜国際総合競技場に来ていただくお客さんとともに楽しく活動して行きたいと思います。祝 F・マリノス優勝！

## 「小さな楽しみ」

佐藤 大治

「助平根性ださないで早く入れよ」と、いつも友達と言う。そこが野球場だろうとラグビー場だろうと変わらない。私は入場する際、必ず男性より女性、しかも若い人のところに並ぶ。「お前も勝利の女神をつかむ努力をしるよ」と縁起を盾にして言うが、「本心は見えない」と痛い所をつく。この行為は今も続いている。

ボランティア活動の二年目、私達にも切符のもぎり業務が廻ってきた。私は運良く2回この配置についた。だが、眼が悪いからと遠慮して後方でパンフ配りに代ってもらった。そこから何気なしに入場者を見ると、「よう、ご同輩」と叫びたくなる人がいるものです。そういう人は、私の前で「ああオジンか」といいたげな顔になる。「悪かったね」と心で返しながらか、「ファン投票用紙です」と元気良く渡してやる。ボランティアも悪いもんじゃないなあと思きながら。

また過日、中村俊輔選手とチームの二つのカードを配ったが、子供と女性には中村選手カード、男性にはチームカードに分け、女性からもう一枚と言われればサービスして、男性には丁重に断った。「これって不公平じゃない？」と自問するも「小さな楽しみ」と勝手な理屈をつけた。脇で係の人がニヤニヤしていたので、感づいていたかも知れない。

今度は、エレベーター前の仕事であっても小さい楽しみを探してみようと考えています。

## 「私の思い」

末吉 邦弘

「ワー、すごい！」この横浜国際総合競技場大きい。映し出されるスクリーンも大きい、客席の色も美しい、それにも増して芝のグリーンの色、目を見張り息を呑む。客席の最上段での場内担当者の方の説明もろくに耳に入らずにいたぐらい。2002年ワールドカップの話に夢見る思いがする。肌の色、目の色、言葉も異なる世界からのお客様が何十万人と集まり、応援合戦が行われる。『すごい。』思っただけでも身体が震えてきそう。こんな夢のような競技場でボランティア活動することになった。とにかくすごい一言である。初めての自分でも大丈夫だろうか、少し心配になってくるが、孫にも自慢したい。ボランティアの仲間にも若い人が多い。説明を受けている間にも明るい雰囲気になってくる。ボランティア活動を1回、2回と重ねるごとに、また、事務局主催の研修などで仲間との触れ合いもでき、また少しずつ競技場内の配置、客席、売店、インフォメーションなど、また、お客様へのあいさつなど。ボランティア仲間との交流が嬉しい。若い学生さんに声をかけるのもかなり慣れてきた。同じ目的を持つ活動の仲間同士との情報交換などでもっと交流を増やし、自分のためにも仲間のためにも楽しいボランティア活動を継続できる様に、また、2002年のワールドカップにはこの競技場で世界のサッカーファンの人に少しでもいいお手伝いをしてみたいと思っています。

## 「ボランティアの独り言」

青木 義次

運営ボランティアとしては、お客様に楽しく観戦していただくために活動しておりますが、先日ゲートでの活動のときに特に気が付いたことは、観客席からコンコースにでてくるなりタバコに火をつけ、そして吸いながら喫煙所へと歩かれる人が非常に多く見受けられ、歩きながらのタバコを注意しようかなと考えましたが、喫煙所に向かっているのが取っ手注意はしませんでした。喫煙所までいくせいぜい数秒間の我慢ができないものかといふ考えてしまいました。ぜひ喫煙のルールは守ってほしいと思います。

それから、お客様から『タバコの自販機はどこにありますか』という質問をよく受けることがあります。私の知る所では、場内には、何処にも無いので返事に困ったことがあり、一回入場すると外へは出られませんので、初めてこの競技場にいられた方は困惑したのではないかと思います。

今回は、つい気になった2つのタバコに関する事を取りあげてみました。

NEWS 私たちの活動の様子がホームページで紹介されています。

『BOOST SOCCER VOLUNTEERS!』

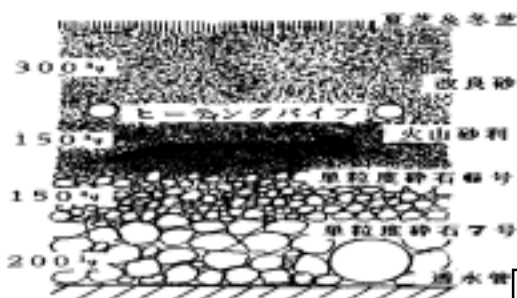
<http://www.geocities.co.jp/Athlete-Athene/4788/>

## 競技場ア・ラ・カルト

スタジアムの芝生が一年中青々しているのは、暖地型芝生(夏芝)『ティフトン』と寒地型芝生(冬芝)『ペレニアルライグラス』2種類が植え分けられているからです。

そのうち冬芝の種は、9月頃に蒔かれると2~3日で芽を出します。そして冬芝の元気なうちは夏芝は地中で冬を越し、春になると冬芝が枯れて夏芝が下から芽を出してきます。

どちらも強い芝生ですが、日々の手入れは欠かせません。どの季節にも通気を良くして、下から温めて地温を保ち、まめにカット(常に30ミリ以下)し、年間240日はゆっくり休ませてあげます。



## 横浜

OFFSIDE

今回は活動時における身だしなみについて考えていきたいと思います。活動時の服装で決まっているのは、ポロシャツまたはウィンドブレーカーに帽子・ID着用ということですが、その着こなしにおける反応が人それぞれに違いがあるようです。たとえば、ポロシャツをズボンの外に出して着ているのはだらしなく、帽子のツバを上にあげているのはよくない、と感じている人がいます。しかし、そのような着こなしをしている人が意図的にだらしなく見せているとは思えませんし、接する人全員に不快を感じさせているわけでもありません。ただ、私たちの着こなしだけでも注目をあびていることを気にかけて、今一度、自分の着こなしを再確認してほしいと思います。また、ゲートでチケットもぎりを担当することがある運営の人は、爪を伸ばしすぎているとお客様の手を引っかいてしまうこともあるそうですので気をつけて下さいね。

この身だしなみに対するルールはありません。これから一緒に考えていきたいと思うので、ご意見などお聞かせください。この記事を書いている私はポロシャツを外に出して着ることに対して特に気にならずにいたので、だらしなく思う人がいることにハッしました。より良いボランティア人になるために外見の印象も良くしたいですからね。

## 国際総合競技場とボランティア

F・マリノスサポーター 花島 信之 氏

本当に寒い日でした。横浜国際総合競技場がオープンし、こけら落しのサッカー日本対韓国の試合を見に行った。開門したというのに行列は全く動かず、小学生の娘は寒さにふるえていました。運営はまずく、観客対策が全くなかったのですから。それからF・マリノスと日本代表の試合は全試合観戦、応援しています。いつのまにか紫のポロシャツを着たボランティアの人たちの姿も眼になじみ、入場の際の皆さんの声に心が落ち着きます。ああここは横浜国際総合競技場だという実感がわいてきます。おかげさまで楽しく、観戦応援をさせていただいています。ただ、F・マリノスサポーターとしては、サッカーの試合のときはトリコロールのポロシャツなど着ていただければ、さらに愛着がわくのですが...

F・マリノスのボランティアではなく、横浜国際総合競技場のボランティアですよ、と言われそうですが。

もう  
何度も

Jリーグの試合などで足を運んでいる熱心なファンの方ならすでにお気づきでしょうが、ホームストレッチの中央、ちょうどロイヤルボックスからピッチに通じる1ブロック分の席は他の席とは違う構造になっています。もちろん幅や材質などには観客重視のこの競技場のこと、他のシートとは一見したところ違いは見られませんが、

その最大の理由は、やはりワールドカップの決勝戦が行われるからです。

もったいぶらずにお教えしましょう。

この1ブロックこそは、決勝戦試合終了後のワールドカップ授与式の時、ロイヤルボックスへ向かう優勝国の選手達のために座席を取りはずして階段になるように設計されているのです。いわば、各地区の予選を勝ち抜いてきた選手たちにとっては聖地にも等しい場所なのです。

2002年ワールドカップではどこの国のイレブンがこの階段をのぼることができるのでしょうか。

この場所は必ずしもツアーに組み込まれるとは限りませんが、VIP席からも見ることができます。座席の足元を見てもらうと通常の見方とは違うことに気がつくと思います。

今回はツアーガイドでなければわからないウラ技をお教えしました。

紙上見学ツアー